

京都・大阪のことばの交渉

— 京都・大阪間における方言の動向についての調査研究 —

岸 江 信 介

1. はじめに

近畿での二大主流方言である京都方言と大阪方言の記述的レベルでの研究は早くから進められ、ほとんどし尽くされてきたといってよい。また、両方言のことばの違いについては、早くから多くの研究者によって指摘されてきたところであるが、その研究報告の大半は、静的な、両方言間の記述を中心とした比較に留まったものが多く、両方言間相互の干渉（ことばの争いといってもよい）、京都・大阪間に存する市町村の方言の地理的状況、京都・大阪両方言に与える「共通語化」の影響等について、いわば動的に捉えた報告は少ないように思われる。

以下では、両都市間でこれまで行ってきた方言グロットグラム調査の結果の中から主なものを逐一紹介し、その力関係や相互にどう影響しあったか、について考える。また、同時にそれぞれ両都市で別途に行った敬語調査の結果も併せて掲げ、それぞれの調査結果の比較も行うことにする。

グロットグラム調査を通じて得た結果のなかでの最大の成果は、京都・大阪間を地理的に連続した形で方言形式の分布を見渡せたことである。また、同時に見かけ上の時間という観点から、連続した両都市間での各地点において70代から10代の各世代毎の結果が得られたことであった。

2. 調査研究の方法

これまで京都と大阪とで対立があるとされてきた言語形式は現在どういう状況にあるのか、世代的・地理的にどう対立しているかを調査することが本研究の目的である。調査はグロットグラム調査を主要とし、両都市でのアンケート調査や敬語調査などを併せて行った。グロットグラム調査では、京都から大阪までの、23の各地域において、10代から70代の話者、7名ずつに対して、京阪で対立があると思われる項目を設定し、調査を行った。但し、関西大都市間ということもあって、話者の選定が難行し、最終目標の182名（26地域×7）に達するには4年の歳月を費やした。

また、本来、厳密な意味でのグロットグラム（地点×年齢）調査では、地点（=1集落）がその調査対象地となるが、各市町村における調査対象集落の設定が都市部で難しく、結局、京都から大阪にかけての市町村の、淀川兩岸の市町村をその対象とし、例えば、吹田市北部、大阪市西部というように、比較的広範囲な地域というように対象地を広げている。

このほか、京都市・大阪市若年層（高校生）アンケート調査、関西中央部4都市で行った敬語調査等で得られた資料も当調査結果との比較のため、随時掲げることにする。

3. 京都・大阪方言の争い - 研究史 -

京都・大阪における方言対立について、その違いをみようとする本格的に調査され出した時期は以外にも早い。泉井久之助が、京都と大阪のドスとダスの分布を見ようと、「淀川沿岸地方におけるドス・ダスの分布について」を昭和7年に「方言」2-1に報告している。戦前から戦後にかけて、榎垣実・前田勇を中心とした京阪の方言研究は隆盛であった。特に、榎垣実「京阪方言比較考」（温古志叢書第4号・土俗趣味社・昭和23年）には、京阪での「方言文法」の比較が詳しくなされている。榎垣のこの論考に寄せた東條操は、次のように述べている。

「語法関係でもっとも著しい対比は、助動詞のオスとオマス、ドスとダスであろう。（中略）江戸時代のドス・ダスの文献資料はまだ発見しないが、恐らくは幕末に近いころに発生したものではあるまいか。大槻博士は、ドスはデオスから、ダスはドスからの轉という説を『口語法別記』に記されている。（中略）オスとオマスとは地理的分布がまだ明らかでない（榎垣実「京阪方言比較考」2ペ・東條操「京と大阪 - 序に代へて -」）。また、前田勇は、「大阪弁の研究」（昭和24年・朝日新聞社）・31ペ～39ペにおいて、打ち消し助動詞「ヘン」への四段動詞のア段接続（例、イカヘン 京都的）とエ段接続（イケヘン 大阪的）例などを含めて詳しく対比している。また前田には、語彙項目を中心としてだが、「近畿方言9」（近畿方言学会編輯・1951-2・3月）に「京阪言葉ちがひ」を報告している。

最近では、佐藤虎男「大阪府方言の研究①～⑩」の中の、①～④「大阪市域方言の方言地理学的研究」（大教大『学大国文』）の他、淀川流域（すなわち、京都・大阪間）を対象とした地理学的研究がある。

更に最新のものに、真田信治「地域社会の言語変化」（真田『地域言語の社会言語学的研究』1990、299ペ～303ペ）があるが、神戸・京都間の主要都市における「新しい方言の誕生」という視点で、若者を対象とした調査結果を掲げている。

4. 京都・大阪間における調査結果

これら、先行文献が既に指摘している、京都・大阪方言間の相違を参考とし、調査結果の提示と分析を以下にみることにする。

4-1. -イカヘンとイケヘン&イカレヘンとイケヘンについて-

(1) 「行かない〔図A〕」・「行かなかった〔図B〕」

四段動詞に打ち消しの助動詞「ヘン」が接続する場合、京都ではイカヘン、大阪ではイケヘンという対立があるということは早くから指摘されていた。正確には、京都では、イカヘン一辺倒でイケヘンとなることはないが、大阪では、イケヘンとイカヘンとを併用しているということができる。大阪では、イカヘンとイケヘンとは異種の関係であり、場面差・文体差等といった使い分けも成されていないものと思われる。両語形の間に年齢差も認められないと思われる。しかし、使用頻度の上からは、大阪市内中央部ではイカヘンよりもイケヘンの使用が多い（老・中・若年層とも）ということができる（真田・岸江「大阪市方言の動向」1990）。

イカヘン（京都） VS イケヘン、イカヘン（大阪）

ということである。「資料」の「行かない〔図A〕」を参照すると、大阪側では京都寄りに三島郡島本町までがイケヘンの北限であるということが出来るだろう。同様に「行かなかった〔図B〕」では、接続のみに注目すると、イカ～、イケ～で、イケ～の北限は、高槻市南部あたりまでということになる。

(2) 「行けない〔図C〕」・「行けなかった〔図D〕」

可能の場合の打ち消しでは、京都で、イケヘン、イケヘンカット、大阪では、イカレヘン、イカレヘンカット（イカレナンダ）といった対立がある。バリエーションは、後述するように豊富である。ところで、「行かない」でもみたように、例えば、「行けない」の場合の対立は、従来から指摘のあった、

イケヘン（京都） VS イカレヘン（大阪）

ではなく、〔図3〕から、

イケヘン、イカレヘン（京都） VS イカレヘン（大阪）

であることが分かる。

4-2. 「行かない」と「行けない」の争い—対立と干渉—

可能動詞「行ける」の打ち消し形であるイケヘンは、近畿各地に分布する。京都でも、イケヘンは有力である。真田信治（1987）によると、大阪がイケヘン（真田の調査語

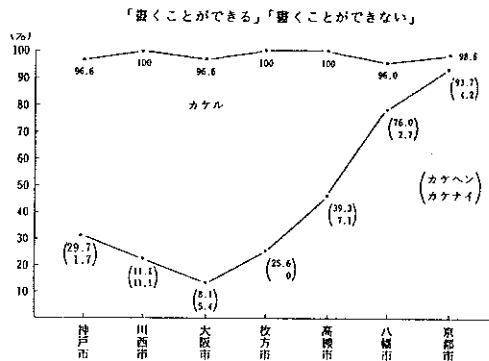
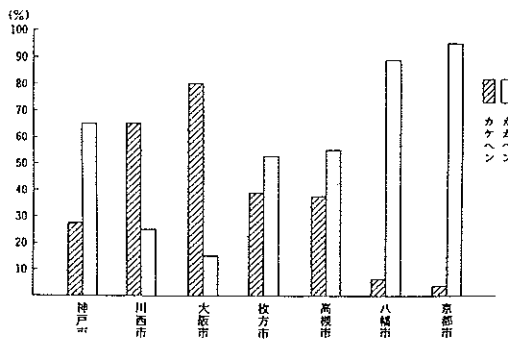


図17 「行かない」



〔図1〕

真田信治（1990）から引用

ではカケヘン)ではなくて、イカレヘンの形式が現れる理由として、「行かない」のイケヘンが大阪では用いられ、「行ける」の打ち消し形イケヘンを取り入れることをしないと説明する。京都のイケヘン(「行けない」)と大阪の場合のイケヘン(「行かない」)のアクセントは共に「イ」ケヘンで同じ。従って、同音衝突が生じ、それを回避するため、大阪では可能打ち消しの場合には用いず、イカレヘンが現れたと真田は説明する。すなわち、大阪では京都のカケヘンの侵入を拒否しているということもできるだろう。

ところで、京都では、確かにイケヘン(「行けない」)が有力ではあるが、大阪のイカレヘン(「行けない」)を受け入れようとする動きがあるようである。この場合、使用頻度からは圧倒的にイケヘンが優勢であろうが、今回のグロットグラム調査では、大阪のイカレヘンの京都への侵攻が認められる。これは、大阪と違い、京都にはイカレヘンを拒む積極的な理由がないからであろう。

〔図2〕の高校生を対象としたアンケート調査結果でも、それが認められる。

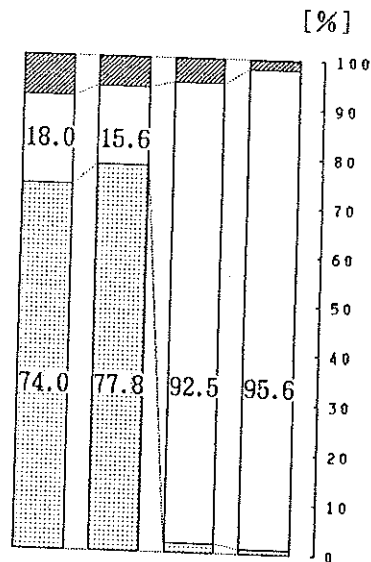
また、大阪で「行かない」の場合、イカヘン・イケヘンを併用する理由は、仮にイケヘン単用だと、「行けない」をイケヘンで用いる地域との誤解が更に助長されるからだと考えられる。大阪での併用はその意味で、誤解回避の緩衝の役割を果たしているともみられないこともない。

真田〔図1〕では、大阪から京都に行くにしたがって、「書けない」のカケヘンが増え、それとは反対に、大阪から京都へ徐々に「書かない」のカケヘンが減っていく。

「書かない」のカカヘンを比率の上から多く用いる地域(あるいは個人)

は「書けない」のカケヘンを受け入れることにも

京都・大阪における「行けない」



調査数	性別	地域
50	男性	京都
45	女性	京都
40	男性	大阪
68	女性	大阪

(凡例)

- イケヘン
- イカレヘン
- ▨ その他(イカレンなど)

〔図2〕

なると思われる。事実、グロットグラム図〔図A〕にも、門真、豊中あたりには、この例をみることができる。

「行かなかった〔図C〕」、「行けなかった〔図D〕」でも、イカヘンカットとイケヘンカット等、比較的新しい形式では、上記のケースとほぼ同様なことが言えそうである。しかし、過去形になると、その形式は夥しい数に上る。

一般に関西諸方言の打ち消し表現のバリエーションがなぜこれ程までに豊富であるかという問題は非常に重要である。

その第一は、既に樫垣実「京阪方言比較考」（1948）によって指摘されている。つまり、動詞活用部と打ち消し助動詞に助詞が介在する形式が基本形であったこと（例、「行きはせぬ」）。この基本形がさまざまな形式をとるということ（イキャ～、イカ～、イケ～「これはイカ～が逆行同化によって生じた」前田勇「大阪弁の研究」（1949）、山本俊治「大阪府方言」（『近畿方言の総合的研究』、1962）など）。第二は、「打ち消し助動詞（原形はセン）」が非常に変化しやすいために、豊富にあることである。「ン」「ヘン」のほか、例えば、大阪では、イン、エン、（以上、河内）、「シン」（泉南）、ヒン（府下、全域）等そのバリエーションが多いということが挙げられる。過去の打ち消し形でも「～ナンダ」、「～ヘンナンダ」「～ンカット」、「～ヘンカット」、「～ンヤッタ」のほか、例えば、「～ヘンナンダ」は、「～ヒナンダ」、「～インナンダ」、「～シンナンダ」等、枚挙にいとまがない程のバリエーションがある。「行かなかった」の大阪府下だけに認められる語形だけでも、恐らく100種をはるかに越すものと予想される。

4-3. ハル敬語－イカハルとイキハル－

京阪地区で最も知られた待遇表現語に「ハル」敬語がある。京都・大阪各地で用いられるが、神戸では用いられない。大阪の方も全域で用いられるというのではなく、堺市から南の岸和田、貝塚あたりでは使用されない（私の調査によると、正確には、和泉市と岸和田市との市境、ここから南ではハル敬語は使用されないのである）。

京都・大阪間での「ハル」敬語には、その使用に差があるので、その違いについてみていくことにする。

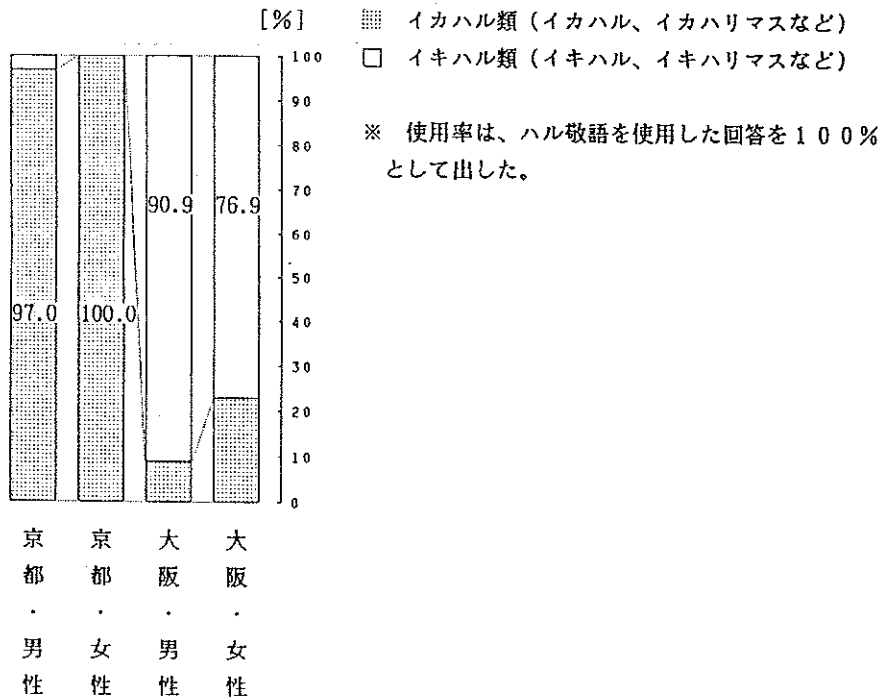
まずは、四段動詞に接続の仕方に違いがある。京都ではイキハル、大阪ではイカハルとなる。但し、厳密にいうと、北河内地区（門真市、寝屋川市など）では、ハル敬語の前身のヤハル（イキヤハル）が現れることが多かったり、イキャハル、イキヤール（河内的）等が老年層を中心に認められる。また、京都の八幡市、大阪の枚方あたりでは、奈良北部方言と共通して、イカル、イカールといった形式がよく現れる。分布図〔図E〕では、このような事情も考慮に入れ、イキハルとイカハルとに分類した。大阪のイキハルの北限は高槻市あたりであり、それよりも京都寄りにイキハルは認められない。大阪側には、イキハルとイカハルが混在する。この混在した状況は、先にみた〔図A〕イカヘン、イケヘンの分布と酷似している。

イキハル、イカハルの使用状況について、若年層アンケート結果を〔図3〕に示す。

グロットグラム〔図E〕の結果と矛盾しない点は、大阪の場合に、イカヘン、イケヘンが混在することである。使用率では、イケヘンの方がやはり上回っている。ところで、京

京都・大阪における「イカハル」・「イキハル」

〔凡例〕



〔図 3〕

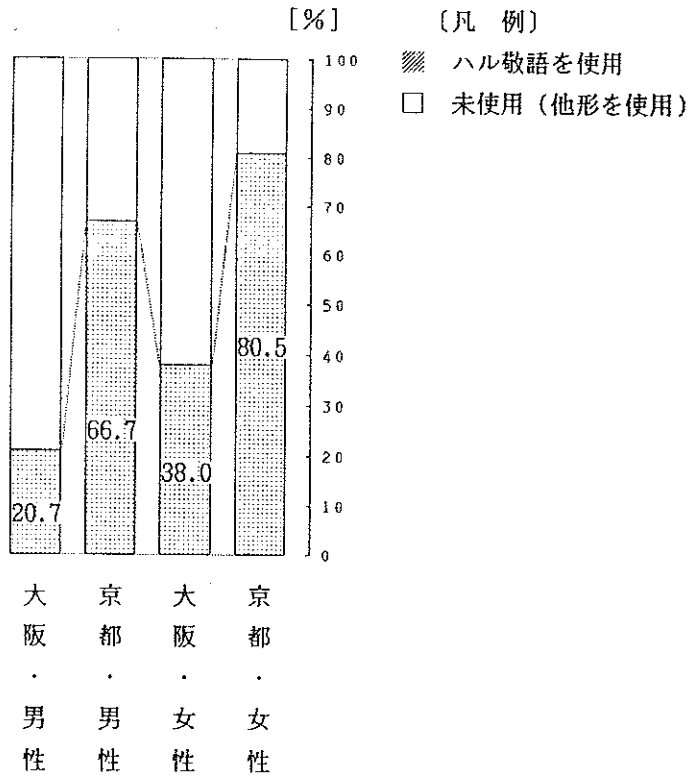
都と大阪とでは、「ハル敬語」の使用において、もう一つ注目しておかなければならないことがある。それは使用頻度の問題である。京都では大阪に比べ、「ハル敬語」が使用される頻度が高いと思われる。例えば、よく取り上げられる例であるが、京都では「猫」に対しても、

○ 「ネ」コガ ヨ「ー」 「ナキハル」 ワ。（猫がよく泣く、の意味）

のように「ハル敬語」が使われることがある（この点については後述する）。使用頻度を調査して比較することは難しいが、大阪との間には、明らかに差があるように思われる。岸江（1991）では、大阪の若年層の「ハル敬語」の使用率が他の世代に比べて、極端に低いことを指摘した。ここでは、これを受けて、京都と大阪の若年層（高校生）で、「ハル敬語」そのものの使用にどの程度、差があるかをみたい。

質問では、目上に対してハル敬語を使用するかどうかを聞いている。京都・大阪において、明らかに差が認められる。京都・大阪とも、女性の方が男子の使用率を上回るが、京都の男性の方が、大阪の女性よりも使用率が高いというのは、注目しておいていいだろう（だが将来においては、大阪若年層の趨勢として、社会人となった後、「ハル敬語」を使い出す、つまり後に獲得していくことも予想される）。

京都・大阪における「ハル敬語」の使用率



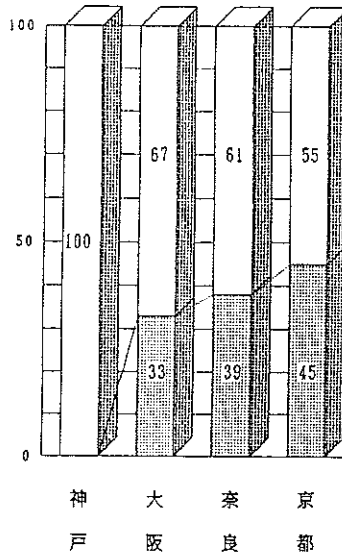
[図 4]

使用率の上から、若年層における差を直ちに、使用頻度の差に結びつけることはできないが、先ほどの「猫」の文例からも、京都では「ハル敬語」の使われる範囲が大阪以上に広いという推定は可能である。この点で、「ハル敬語」が敬語としての分類の、どの種類に属するかが問題となる。「ハル敬語」が例によく採られたりして、関西では身内の者にも敬語を使うから「絶対敬語的」だと言われることがあるが、その場合には「ハル敬語」を尊敬語としてみなしている。しかし、尊敬語だとすれば、「猫」に使うのはおかしいという論議となる。この点について、藤原与一（1978）、鳥田勇雄（1966）にほぼ同一の見解がある。すなわち、身内に対して使われる場合などは、「ていねい意識のもとで、尊敬用助動詞を使っている（藤原）」、「『はる』は、敬語（尊敬語の意味、引用者）から丁寧語へ動きつつあるというべきかもしれない（鳥田）」といった見方である。

また、井上史雄（1979・1981）は、「ハル敬語」への直接の言及ではないが、日本の敬語の一般的な傾向として、素材敬語（尊敬語・謙讓語）が対者敬語（丁寧語）化しつつある点を指摘している。

【質問】 隣の赤ちゃん “よう笑いハル” と言うか？

【%】 【男性】

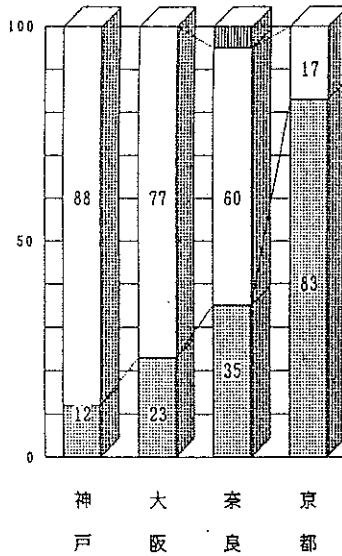


【凡 例】

▨ 言う

□ 言わない

【%】 【女性】



【凡 例】

▨ 言う

□ 言わない

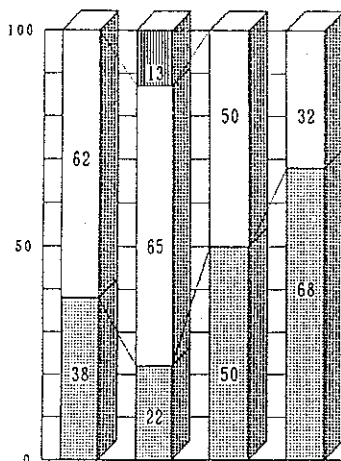
▤ 無回答

〔 図 5 〕

岸江信介（1993）から引用

【質問】 隣の赤ちゃん、“よう笑いハル” というように、
「赤ちゃん」に“ハル”を用いるのはおかしいか。

【%】 【男性】

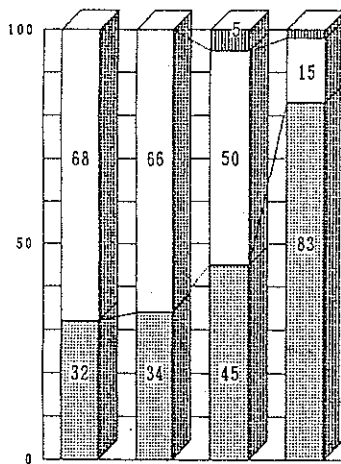


【凡例】

- おかしくない
- おかしい
- 無回答

神 大 奈 京
戸 阪 良 都

【%】 【女性】



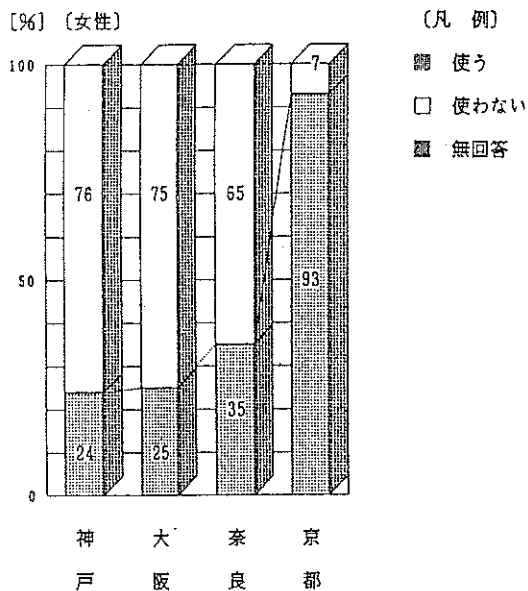
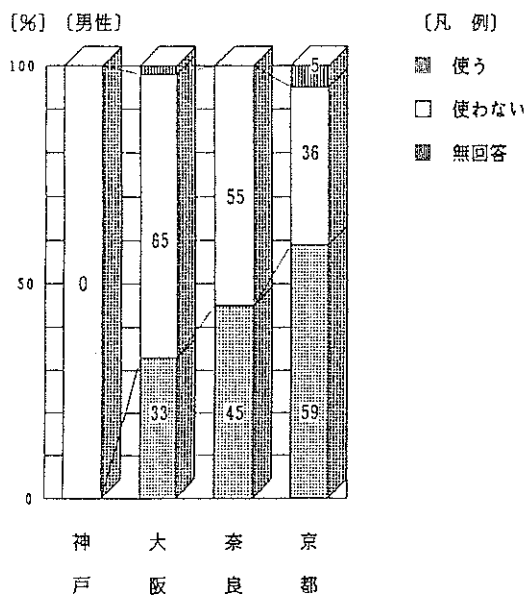
【凡例】

- おかしくない
- おかしい
- 無回答

神 大 奈 京
戸 阪 良 都

〔 図 5 〕

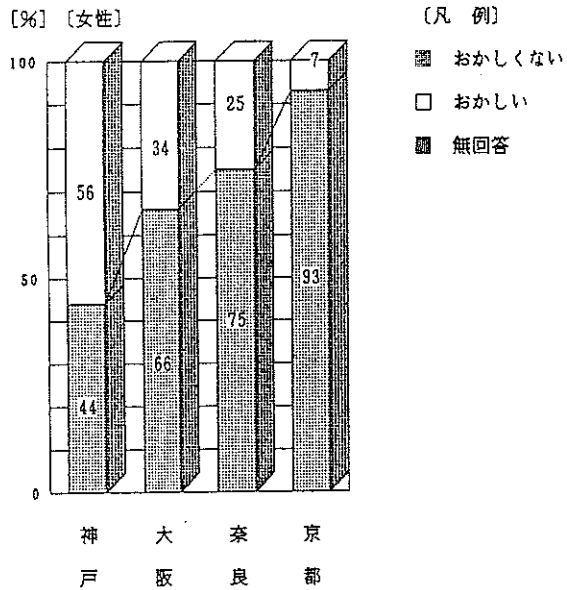
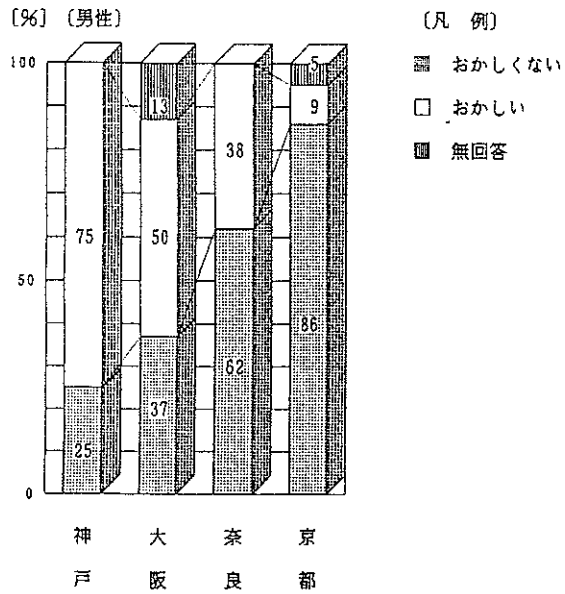
【質問】 母親に対して、“お父さん、もう帰って来ハル”というように、「父親」に“ハル”を使うことがあるか。



[図 6]

岸江信介（1993）から引用

【質問】 「父親」に「ハル」を使うのはおかしいか。



[図 6]

これらの点について、京都では丁寧語への傾斜が急であるが、大阪ではその傾向が緩いのではないかという仮説をたててみた。

岸江（1993）は、この部分を検証するために、京都・大阪を含む近畿中央部の4都市（その他、神戸市と奈良市）で敬語の世代別調査の報告を行った。すなわち、各都市での「ハル敬語」の使用上の差異と、各都市において、一体「ハル敬語」が尊敬語的に使われているのか、あるいは丁寧語的に使用されているのか、その傾向を探ろうと試みた。その結果を〔図5・図6〕に掲げる。調査は、家庭内で父親に対し、「ハル敬語」を用いるかどうか、また、赤ちゃんに対して用いるかどうかといった質問を行った。結果では、京都と大阪で明らかな差が、その使用率、「ハル敬語」に対する評価（意識）の両者において認められた。このような各都市間での差は、〔図4〕の若年層の結果とも一致する。父親に対して用いられた「ハル敬語」を関西の絶対敬語的名残の根拠の1つだとする主張もあるが、赤ちゃんに対して用いられるということになると、絶対敬語の名残ということだけでは十分に説明できず、やはり「ハル敬語」が丁寧語化しつつあり、しかも京都でのこの傾向が最も顕著で、関西中央部の都市ごとにその程度に格差があるというがいえるであろう。

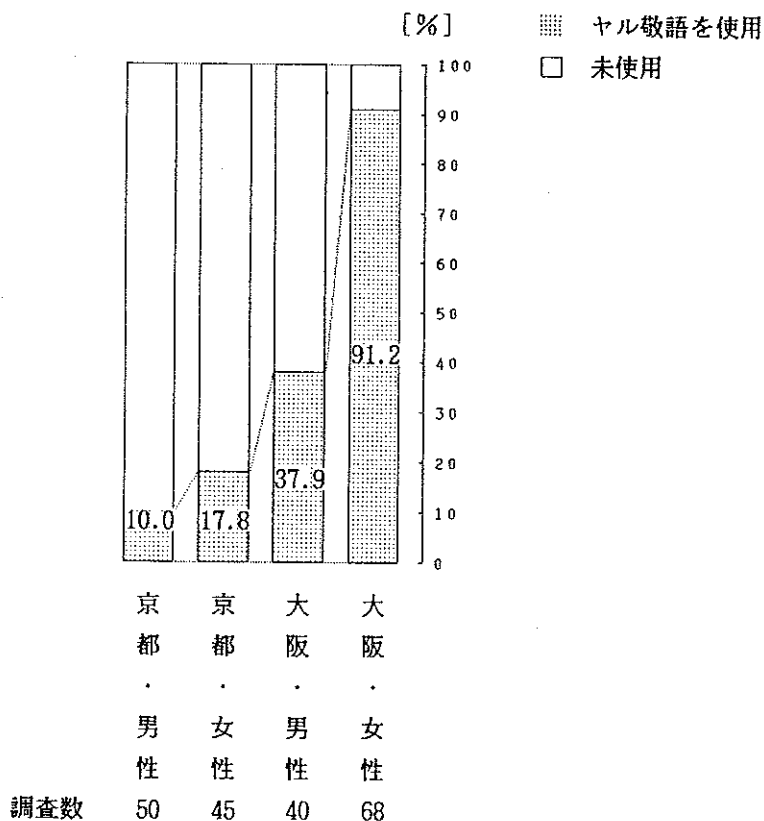
4-4. ヤル敬語 — 使用の有無 —

次に「ヤル敬語」についてみる。図Fの質問文にあるように、行きヤル、行きヤッタのように用いられる。京都では、使用が認められず、専ら大阪で用いられる。図Fから、大阪側の北限は高槻市あたりと思われる。島本町での使用は認められなかった。

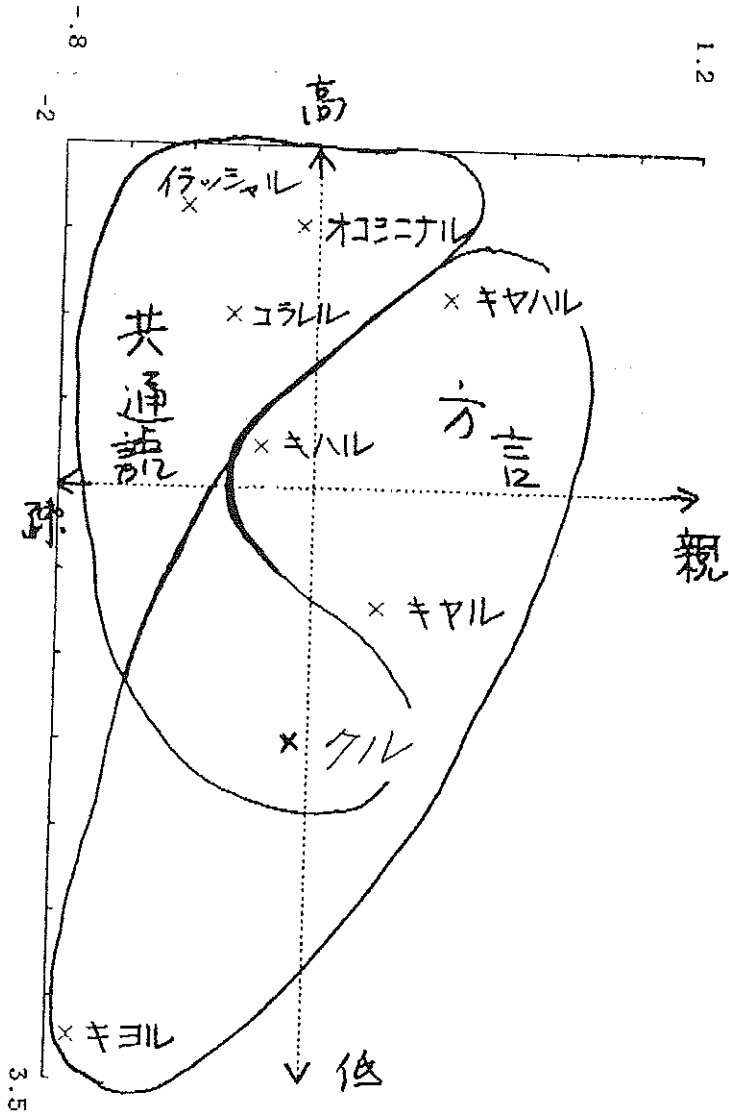
ヤルの出自は、樫垣（1948）によると、ハルと同様、ヤハルからの変化とされる。京都でも幼児にはイキヤールという形式があるという報告をしているが、地に根差したものではないと思われる。しかし、京都・大阪若年層調査では、京都市内にもわずかではあるが、使用するという回答を得ている。京都若年層での使用はこの場合、大阪（中・若年層）の影響による公算が大きいと思われる。大阪市内にも明らかに性差が認められ、男性の使用は、40%にも満たない。京都でも、女性の方が、若干、使用が上回る。「ハル敬語」と比べると、待遇価が低いと言われている。「モーイキハリマシタカ」とはなるが、「モーイキヤリマシタカ」という言い方があまりされないのも、待遇価の低さと関連があるろうか。また、「ハル敬語」では、対者・第三者の両方に用いられるが、「ヤル敬語」には対者に対しての使用はないといってもよい。この点軽卑のヨルと性格が似ている。ヨルも対者に直接用いられることはない。「ヤル敬語」は、尊敬語とみるよりは、むしろ親愛語といった性格が強い。ほとんど非公式場面での使用に限られ、動作主（＝第三者）に対する尊敬とみるよりは親愛とみる方が適当だと思う。さて、共通語のイラッシュル、オコシニナル、コラレルといった形式とハル、ヤハル、ヤル、ヨルがどういう待遇関係にあるか、話者や調査者の主観でこれらを予想するのではなく、実際の調査によって得られたデータから統計的に得られた客観的な結果を示すことにする。調査での質問項目は、「○○が来る」という場合に、話し相手（目上・目下）に応じて第三者がどう待遇されるか、7つの場面を設け、その結果を用いられた形式毎に整理した。調査は、大阪市内の生え抜き約100余名に対して行い、多変量解析（PCA分析）によって〔図8〕が得られた。これまで、ヤルよりもハルの方が待遇度がやや低いとか、レル（ラレル）はハルに比べると

待遇度が高いと言われてきたが、これらはいくまでも話者や調査者の内省によるものであった。縦軸にみる待遇度の高低はほぼこの内省を裏づける結果となった。また、横軸は親疎を示すものと思われる。ただし、この場合、横軸の数値は、図示したものよりもはるかに狭く、座標に位置付けられるほどに意味があるとは思えない。従ってイラッシュ、オコシニナル等の方がキヨルより「疎」であるかどうかは、断言できない。なお、この多変量解析は、岸江他が集めたデータをもとに早野慎吾氏によって行われた。

京都・大阪における「ヤル敬語」の使用率 (凡例)



[図 7]



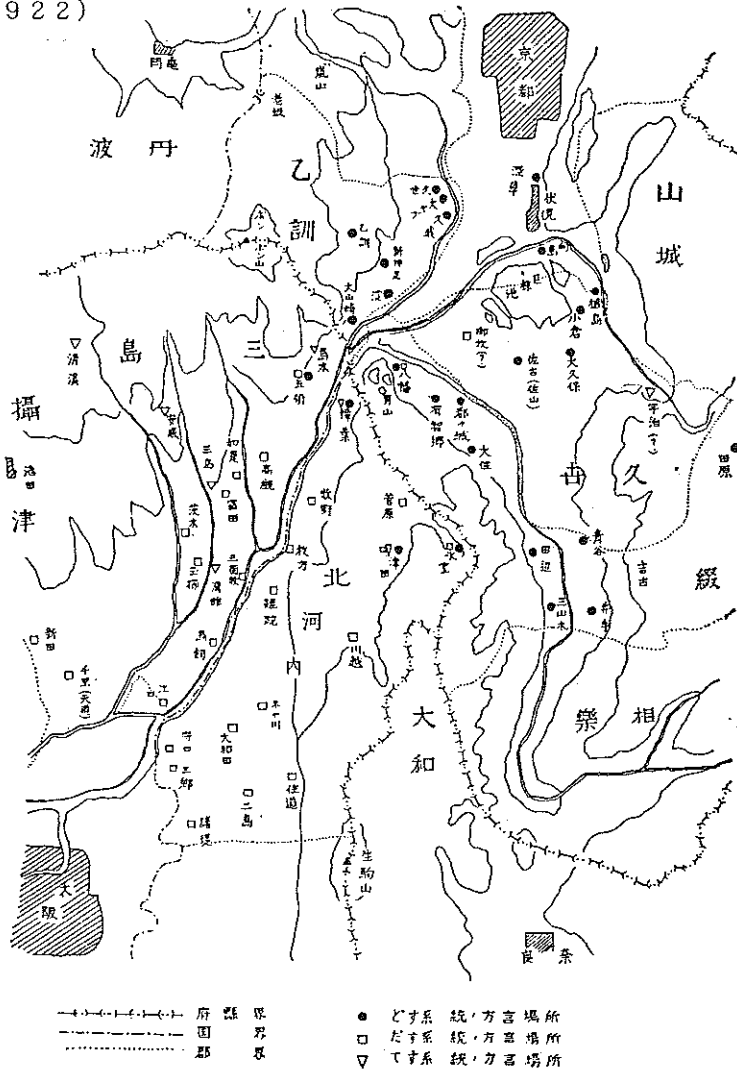
[図 8]

4-5. ドスとダス

図Gと図Hは、ドスとダスとの使用について調べたものである。使うかどうか、又、聞いたことがあるかどうかといった聞き方をした。聞くことがあるという場合も、その地で使うのを聞いたことがあるかどうかというのが大事なので、例えば、京都以外の地の話者が、京都で聞くという回答をした場合は、「聞くことがある」として扱わなかった。あくまでもその地で聞くという場合に限定した。

泉井(1922)

淀川沿岸地方におけるドス・ダスの分布について



※ドスの記号は、○から●に岸江が改めた。

〔図9〕

両図から、そのドスとダスとの境界は、府の境でもある天王山とすることができる。〔図9〕として引用した泉井(1922)とは、調査に70年間の隔たりがあるものの、その分布はほぼ一致するとしてよいだろう。細かいところだが、枚方老年層のドスの使用は、泉井の図の枚方市津田の結果と合致する。京都側のドスはこのように一部大阪にも認められるが、ほぼ天王山を境に、大阪のダスと半世紀以上に渡って相對峙してきたといえる。ところが、そのせめぎあいの決着をみないまま双方ともデスに押されて、いままさに衰退の一途である。

4-6. オスとオマス

京都・大阪で対立があるとされてきたオスとオマスは、今までその分布自体が明らかにされていない。府境の八幡市、大山崎、島本町あたりでは、両者が入り乱れた格好である。オマスが、向日市あたりにまで伸びている一方で、オスの方も島本町、高槻市の南部にもその使用が認められた。しかし、両者とも、アンケート調査による若年層の使用は皆無であり、中年層あたりでも、理解語だとした回答が圧倒的に広がってきている点は、ドス、ダス同様、老人語の域に達しているといえる。両語形ともアリマスにとって代わられるのはそれほど先ではない。

5. おわりに -反省と今後の課題-

京都・大阪間調査の、60の調査項目のうち、最初の10項目について、その対立と動向の視点で、見たに過ぎない。また、これらは、既に早くからこの地域において対立があると指摘されてきた項目群でもあり、その意味では目新しさがなかったかも知れない。しかし、各項目毎の詳細な分布や対立などの移り変わり、あるいは、共通語化による退化という観点では、まず抑さえておかなければならないと考えて調査を企画した。

今回、すべての調査結果について言及できなかったが、京都・大阪の老年層で共通して使用される形式が若年層と対立をなすという結果も多くみられた。この意味では、近畿中央部の京都・大阪における共通語化の影響がどういう進展状況にあるかということを知ることは、私にとって大きな課題でもある。

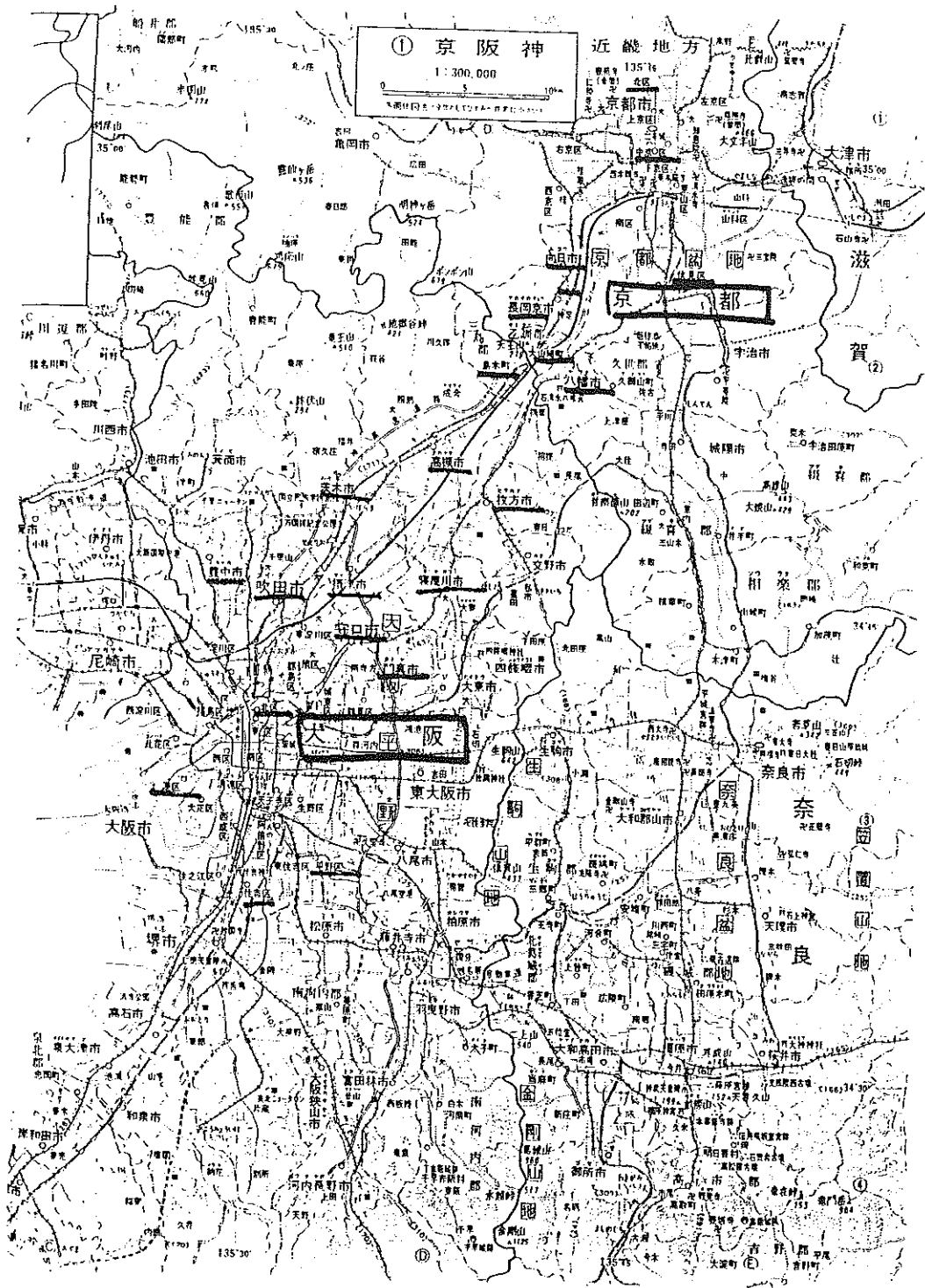
このグロットグラム調査のあと、大阪市と京都市とで比較的大規模な言葉の使い分けに関する調査を実施した。特に大阪市の調査結果については報告を行っているが、両都市での世代別調査結果の比較を早期に行い、両都市の言葉の違いについて更に考察を深めていきたいと思う。

付 記

京都・大阪間のグロットグラム調査は、梅花女子大学の国語学ゼミ受講生6名を中心に、ゼミ演習の一環として行ったものである。

また、京都市、大阪市の高校生を対象としたアンケート調査では、京都教育大学の三浦一朗氏、京都府立高校の奥田力氏、同手塚ゆき氏、大阪市立の高校の嵐壽徳氏の協力を得た。

更に当調査の全結果については、近畿方言研究会編「地域語資料集1『京都～大阪方言グロットグラム集』」に詳しい。是非、参照願いたい。



〔図10〕

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [011]

項目名 [行かない]

質問 : 「今日は仕事にいくのか」と家族の人から聞かれて、「行きは
しない」という時、どう言いますか。

[凡 例]

		世 代	70	60	50	40	30	20	10	
	地 点	代	代	代	代	代	代	代	代	
101	京都市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	/
102	京都市 b	中部	/	/	/	/	/	/	/	㊦ イカヒン
103	京都市 c	南部	/	/	/	/	/	/	/	▼ イケヘン
104	向日市		/	/	/	/	/	/	/	
105	長岡京市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	
106	長岡京市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/	
107	八幡市		/	㊦	▼	▼	/	/	/	
108	乙訓郡大山崎町		/	/	/	/	/	▼	▼	
109	三島郡島本町		/	/	/	/	▼	/	/	
110	高槻市 a	北部	/	▼	/	/	▼	/	/	
111	高槻市 b	南部	▼	▼	/	/	/	/	/	
112	枚方市 a	北部	/	/	/	/	▼	/	/	
113	枚方市 b	南部	▼	▼	/	/	▼	/	/	
114	茨木市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	
115	茨木市 b	南部	/	/	/	▼	/	/	/	
116	摂津市		▼	/	▼	㊦	/	/	/	
117	吹田市 a	北部	/	/	/	▼	/	▼	/	
118	吹田市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/	
119	豊中市		▼	/	/	/	/	/	▼	
120	大阪市 a	北部	㊦	/	▼	/	/	/	▼	
121	大阪市 b	南部	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	
122	大阪市 c	東部	/	▼	▼	▼	▼	▼	▼	
123	大阪市 d	西部	▼	/	▼	/	▼	▼	▼	

[㊦ A]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [02]

項目名 [行かなかった]

質問: 「昨日仕事に行ったか」と家族の人から聞かれて、「行きはしなかった」という時、どう言いますか。

[凡 例]

	世 代	70	60	50	40	30	20	10
地 点		歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代
101	京都市 a	北部	/	/	/	/	/	/
102	京都市 b	中部	/	/	/	/	/	/
103	京都市 c	南部				N	/	/
104	向日市		≥	■	/	≥	/	/
105	長岡京市 a	北部	/	/	/	/	/	⊙
106	長岡京市 b	南部	—	—	/	/	/	/
107	八幡市		>	—	/	/	/	/
108	乙訓郡大山崎町		/	/		■	■	/
109	三島郡島本町		/	<		⊙	/	■
110	高槻市 a	北部	/	/	/	/	<	⊙
111	高槻市 b	南部	▼		<		▼	/
112	枚方市 a	北部	/	/	⊙	/	▼	/
113	枚方市 b	南部	/ ⊙	/		/	■	/
114	茨木市 a	北部	/	/	/	/	/	/
115	茨木市 b	南部	/	/	/	▼	/	⊙
116	摂津市		⊙	/	⊙	▼	/	▼
117	吹田市 a	北部	/	/	/	▼	/	▼
118	吹田市 b	南部	/	/	■	▼	/	▼
119	豊中市			/	■	/	/	/
120	大阪市 a	北部	/	/		⊙	/	▼
121	大阪市 b	南部		/		▼	▼	▼
122	大阪市 c	東部				▼	▼	▼
123	大阪市 d	西部			▼	▼	▼	▼

/ イカヘンカッタ

< イカヘンダッタ

≥ イカヘンダ

> イカヘンヤッタ

|| イカナンダ

— イカヒンダ

| イカヘナンダ

⊙ イカンカッタ

▼ イケヘンカッタ

■ イカナカッタ

N 無回答

[㊦ B]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [03]

項目名 [行けない]

質問： 「今日は用事で仕事に行くことができない」と家族の人に言う場合、「行くことができない」の部分はどう言いますか。

[凡 例]

		世 代	70	60	50	40	30	20	10
	地 点		歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代
101	京都市 a	北部	▽/	▽/	▽	▽	/	/	▽
102	京都市 b	中部	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
103	京都市 c	南部	/	/	▽/	▽	▽	/	▽
104	向日市		/▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
105	長岡京市 a	北部	/	▽	▽	▽	▽/	▽/	▽
106	長岡京市 b	南部	▽	▽	N	▲	▽	▽	▽
107	八幡市		/	▽	/	/	▽	▽	▽
108	乙訓郡大山崎町		▽▲	▽	▽/	N	▽	▽	▽
109	三島郡島本町		/▽	▽	/	/	▽/	▽	▽
110	高槻市 a	北部	/	/	▽	/	▽/	/	▽
111	高槻市 b	南部	/	/	/	/	▽	/	▽
112	枚方市 a	北部	▽	▽	/	/	▽	/	/
113	枚方市 b	南部	/	/	/	/	▽	/	/
114	茨木市 a	北部	▽◆	/◆	/	▽	/	/	/
115	茨木市 b	南部	/	/	/	/	▽	/	/
116	摂津市		/	/	/	/	/	/	/
117	吹田市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/
118	吹田市 b	南部	◆	▲	/	/	/	/	/
119	豊中市		▽	▽	/	/	/	/	/
120	大阪市 a	北部	/◆	/	/	◆	/	/	/
121	大阪市 b	南部	◆	/	/	/	/	/	/
122	大阪市 c	東部	/	/	/	/	/	/	/
123	大阪市 d	西部	/	/	/	/	/	/	/

- ▽ イケヘン
- / イカレヘン
- イカレイン
- ＼ イカレヒン
- ◆ ヨーイカン
- ▲ イカヘン
- N 無回答

[図 C]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [04]

項目名 (行けなかった)

質問: 「昨日は用事で仕事に行くことができなかった」と家族の人に言う場合、「行くことができなかった」の部分はどう言いますか。

(凡 例)

No.	地 点	世 代	年 代							
			70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代	
101	京都市 a	北部	▼	▼	▼	▼	▼	▼	/	
102	京都市 b	中部	▼	/	▼	▼	▼	▼	▼	
103	京都市 c	南部	/	/	/	▼	▼	/	/	
104	向日市		/	/	/	▼	▼	▼	▼	
105	長岡京市 a	北部	/	/	◆	▼	/	▼	/	
106	長岡京市 b	南部	◎	◆	N	\	▼	▼	/	
107	八幡市		/	◆	/	\	/	▼	▼	
108	乙訓郡大山崎町		/	▼	▼	N	N	/	/	
109	三島郡島本町		▲	<		/	/	▼	▼	
110	高槻市 a	北部	--	/	▼	/	/	/	▼	
111	高槻市 b	南部	/	/	/		▼	/	▼	
112	枚方市 a	北部			/	/	/	/	/	
113	枚方市 b	南部	/	/	/	/	/	▼	/	
114	茨木市 a	北部		/	/	/	/	/	▼	
115	茨木市 b	南部	=	/	/	▲	/	/	N	
116	摂津市		\	/	\	/	/	/	/	
117	吹田市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	
118	吹田市 b	南部	\			/	/	/	/	
119	豊中市		/	N	/	/	●	/	/	
120	大阪市 a	北部	■	■		■	/	/	/	
121	大阪市 b	南部	■	/	/	/	/	/	/	
122	大阪市 c	東部				/	/	/	/	
123	大阪市 d	西部	/	/	/	/	/	/	/	

- ▼ イケヘンカッタ
- ▲ イケナンダ
- ◆ イケヘンダ
- / イカレヘンカッタ
- \ イカレンカッタ
- || イカレナンダ
- = イカレヘナンダ
- < イカレヘンダッタ
- > イカレヘンヤッタ
- ◎ イカレヘンダ
- ヨーイカンカッタ
- ◎ イケヒンダ
- イケヘナンダ
- N 無回答

[㊦ D]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [05]

項目名 [ハル敬語]

質問： 「今日は用事で仕事に行きますか」と目上の人に言う場合、「行きますか」の部分を一カハリマスカ、イキハリマスのように言いますか。

(凡 例)

No.	地 点	世 代	年代							
			70	60	50	40	30	20	10	
01	京都市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	/
02	京都市 b	中部	/	/	/	/	/	/	/	/
03	京都市 c	南部	/	/	/	0	/	/	/	/
04	向日市		/	/	/	/	/	/	/	0
05	長岡京市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	/
06	長岡京市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/	/
07	八幡市		/	/	/	/	/	0	0	
08	乙訓郡大山崎町		/	/	/	/	/	/	/	/
09	三島郡島本町		/	/	/	/	/	/	/	0
10	高槻市 a	北部	/	/	/	▼	0	/	/	/
11	高槻市 b	南部	/	▼	/	▼	▼	▼	0	
12	枚方市 a	北部	▼	/	/	/	0	/	/	/
13	枚方市 b	南部	/	/	/	/	/	▼	/	/
14	茨木市 a	北部	/	/	/	0	/	/	0	
15	茨木市 b	南部	/	/	/	▼	/	▼	0	
16	摂津市		▼	/	▼	0	/	▼	▼	
17	吹田市 a	北部	/	/	▼	/	0	▼	▼	
18	吹田市 b	南部	0	0	/	/	0	0	0	
19	豊中市		0	▼	0	▼	0	0	0	
20	大阪市 a	北部	/	▼	/	▼	0	/	▼	
21	大阪市 b	南部	▼	0	▼	▼	▼	▼	0	
22	大阪市 c	東部	▼	/	▼	/	▼	0	0	
23	大阪市 d	西部	▼	▼	▼	▼	0	0	0	

/ イカハリマスカ類

イカハリマスカ
イカハリマッカ
イカハルデスカ
イカハレヘン
イカハラヘン
イカハル
イカール
イキャハリマスカ
など

▼ イキハリマスカ類

イキハルデスカ
イキハリマス
イキハリマンノ
イキハマッカ
イキハル
など

0 その他

イラッシャイマスカ
イカレマスカ
イカレルデスカ
イキマスカ
など

[図 E]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [06]

項目名 [ヤル敬語]

質問: 「あの子、今日、一人で行きヤンねん」というように、「いきヤンねん」という言い方をすることがありますか。「行きヤル」とも言いますか。

(凡 例)

● 使用する

／ 使用しない

番号	地名	部	年代							
			70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代	
101	京都市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	/
102	京都市 b	中部	/	/	/	/	/	/	/	/
103	京都市 c	南部	/	/	/	/	/	/	/	/
104	向日市		/	/	/	/	/	/	/	/
105	長岡京市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	/
106	長岡京市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/	/
107	八幡市		/	/	●	/	/	/	/	/
108	乙訓郡大山崎町		/	/	/	/	/	/	/	/
109	三島郡島本町		/	/	/	/	●	●	/	/
110	高槻市 a	北部	/	/	/	●	●	●	●	/
111	高槻市 b	南部	●	/	/	/	●	●	●	/
112	枚方市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/	●
113	枚方市 b	南部	●	●	●	●	●	●	●	●
114	茨木市 a	北部	●	●	●	●	●	●	●	●
115	茨木市 b	南部	●	/	●	/	●	/	/	/
116	摂津市		●	●	●	/	●	/	/	/
117	吹田市 a	北部	●	●	●	/	/	●	●	/
118	吹田市 b	南部	/	/	/	/	/	●	●	/
119	豊中市		/	/	/	●	/	●	●	/
120	大阪市 a	北部	●	/	/	●	●	●	●	●
121	大阪市 b	南部	●	●	●	/	●	●	●	●
122	大阪市 c	東部	/	/	●	●	●	●	●	●
123	大阪市 d	西部	/	/	/	●	●	●	/	/

[図 F]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [07]

項目名 [ドス]

質問： 目上の人から「今日は暑いですね」と言われて、「そうですね」と言う時、「そードスなー」ということがありますか。

[凡 例]

- 使用する
- ▽ 聞くことはあるが使用しない
- ／ 聞いたこともない
- N 無回答

No.	地 点	世 代	70	60	50	40	30	20	10
			歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代
101	京都市 a	北部	●	▽	▽	▽	▽	▽	／
102	京都市 b	中部	●	●	●	●	▽	▽	▽
103	京都市 c	南部	●	●	●	▽	▽	●	●
104	向日市		●	●	●	●	／	▽	▽
105	長岡京市 a	北部	●	●	●	●	／	／	／
106	長岡京市 b	南部	●	●	●	●	▽	／	／
107	八幡市		●	●	▽	▽	／	／	／
108	乙訓郡大山崎町		●	●	●	▽	▽	▽	▽
109	三島郡島本町		▽	▽	▽	▽	／	▽	▽
110	高槻市 a	北部	／	／	▽	／	／	▽	／
111	高槻市 b	南部	▽	▽	▽	▽	／	▽	／
112	枚方市 a	北部	●	▽	▽	▽	／	／	／
113	枚方市 b	南部	／	／	／	／	／	／	／
114	茨木市 a	北部	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
115	茨木市 b	南部	／	／	／	▽	▽	／	／
116	摂津市		／	／	／	／	／	／	／
117	吹田市 a	北部	／	／	／	／	／	／	／
118	吹田市 b	南部	／	▽	／	／	／	／	／
119	豊中市		▽	／	▽	／	／	／	／
120	大阪市 a	北部	／	／	／	／	／	／	／
121	大阪市 b	南部	／	▽	／	／	／	／	／
122	大阪市 c	東部	／	／	／	／	／	／	／
123	大阪市 d	西部	／	／	／	／	／	／	／

[㊦ G]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [08]

項目名 [ダス]

質問： 目上の人から「今日は暑いですね」と言われて、「そうですね」と
言う時、「ソーダスなあ」ということがありますか。

[凡 例]

- 使用する
- ▽ 聞くことはあるが使用しない
- ／ 聞いたこともない

No.	地 点	世 代	年齢						
			70 歳代	60 歳代	50 歳代	40 歳代	30 歳代	20 歳代	10 歳代
101	京都市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/
102	京都市 b	中部	/	/	/	/	/	/	/
103	京都市 c	南部	/	/	/	/	▽	/	/
104	向日市		/	/	/	●	/	/	▽
105	長岡京市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/
106	長岡京市 b	南部	/	/	/	▽	▽	▽	▽
107	八幡市		/	/	/	/	/	/	/
108	乙訓郡大山崎町		/	●	/	/	/	/	/
109	三島郡島本町		/	▽	▽	●	▽	▽	/
110	高槻市 a	北部	●	/	/	/	▽	/	/
111	高槻市 b	南部	●	▽	●	▽	▽	/	/
112	枚方市 a	北部	●	●	▽	▽	/	▽	/
113	枚方市 b	南部	●	▽	▽	▽	▽	/	▽
114	茨木市 a	北部	▽	●	●	▽	/	▽	▽
115	茨木市 b	南部	●	●	▽	▽	▽	/	/
116	摂津市		/	/	/	▽	/	▽	▽
117	吹田市 a	北部	/	▽	▽	/	/	/	/
118	吹田市 b	南部	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽
119	豊中市		▽	▽	▽	/	▽	▽	▽
120	大阪市 a	北部	●	▽	/	/	/	/	/
121	大阪市 b	南部	▽	▽	▽	●	/	/	▽
122	大阪市 c	東部	▽	▽	▽	●	▽	/	▽
123	大阪市 d	西部	●	●	▽	▽	/	/	/

[図 H]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [09]

項目名 [オス]

質問： 目上の人から「新聞、そこにありますか」と聞く時、「ソコニオスカ」というように言うことがありますか。

(凡 例)

● 使用する

▽ 聞くことはあるが使用しない

/ 聞いたこともない

No.	地 点	世 代	年齢						
			70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	10歳代
101	京都市 a	北部	●	▽	▽	●	▽	▽	▽
102	京都市 b	中部	●	●	●	▽	▽	▽	▽
103	京都市 c	南部	●	●	●	●	●	▽	▽
104	向日市		▽	●	▽	●	/	/	▽
105	長岡京市 a	北部	●	●	▽	▽	▽	/	/
106	長岡京市 b	南部	/	▽	▽	▽	▽	/	/
107	八幡市		/	▽	▽	▽	▽	/	/
108	乙訓郡大山崎町		▽	▽	▽	▽	▽	/	/
109	三島郡島本町		●	●	●	▽	▽	▽	/
110	高槻市 a	北部	▽	/	▽	/	/	/	/
111	高槻市 b	南部	▽	▽	●	▽	▽	/	/
112	枚方市 a	北部	▽	/	▽	▽	/	/	/
113	枚方市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/
114	茨木市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/
115	茨木市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/
116	摂津市		/	▽	/	/	▽	/	/
117	吹田市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/
118	吹田市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/
119	豊中市		/	/	/	/	/	/	/
120	大阪市 a	北部	/	/	/	/	/	/	/
121	大阪市 b	南部	/	/	/	/	/	/	/
122	大阪市 c	東部	/	/	/	/	/	/	/
123	大阪市 d	西部	/	/	/	/	/	/	/

[図 I]

京都～大阪間方言グロットグラム

番号 [10]

項目名 [オマス]

質問： 目上の人から「新聞、そこにありますか」と聞く時、「そこにオマスか」というように言うことがありますか。

(凡 例)

● 使用する

▽ 聞くことはあるが使用しない

/ 聞いたこともない

No.	地点	世 代	70	60	50	40	30	20	10
			歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代	歳代
101	京都市 a	北部	▽	/	/	/	▽	/	/
102	京都市 b	中部	/	/	/	/	/	/	/
103	京都市 c	南部	/	/	/	/	/	/	/
104	向日市		/	/	●	/	/	/	▽
105	長岡京市 a	北部	/	▽	▽	▽	●	●	/
106	長岡京市 b	南部	●	/	/		▽	/	/
107	八幡市		▽	/	/	/	/	/	/
108	乙訓郡大山崎町		●	●	●	▽	▽	/	/
109	三島郡島本町		●	●	▽	▽	▽	▽	▽
110	高槻市 a	北部	●	●	▽	▽	▽	▽	/
111	高槻市 b	南部	●	▽	●	/	●	/	▽
112	枚方市 a	北部	●	●	▽	▽	▽	▽	/
113	枚方市 b	南部	●	●	●	▽	●	▽	/
114	茨木市 a	北部	●	▽	●	▽	▽	▽	▽
115	茨木市 b	南部	●	●	▽	▽	●	/	/
116	摂津市		/	▽	/	▽	▽	▽	▽
117	吹田市 a	北部	●	▽	▽	/	/	/	/
118	吹田市 b	南部	●	/	▽	▽	▽	/	/
119	豊中市		▽	●	▽	▽	/	▽	▽
120	大阪市 a	北部	●	▽	▽	▽	▽	▽	/
121	大阪市 b	南部	●	▽	▽	●	/	/	▽
122	大阪市 c	東部	▽	●	●	▽	▽	/	▽
123	大阪市 d	西部	▽	●	●	▽	▽	▽	▽

[図 J]

〈 参考文献 〉

1. 泉井久之助（1922）「淀川沿岸における地方におけるドス・ダスの分布について」（『方言』2-1・春陽堂）
2. 榎垣実（1946）「京言葉」・高桐書院
3. 榎垣実（1948）「京阪方言比較考」（『温古志叢書』第4号）
4. 前田勇（1949）「大阪弁の研究」・朝日新聞社
5. 前田勇（1951）「京阪言葉ちがひ」（近畿方言研究会編輯『近畿方言』9）
6. 山本俊治（1962）「大阪府方言」（榎垣実編『近畿方言の総合的研究』）
7. 島田勇雄（1966）「近世敬語の特質」（『国文学』-解釈と教材の研究-7月臨時増刊・学燈社）
8. 藤原与一（1978）「昭和日本語方言の総合的研究 第1巻 方言敬語法の研究」・春陽堂
9. 井上史雄（1979）「若者の敬語行動」（月刊『言語』8-6）
10. 井上史雄（1981）「敬語の地理学」（『国文学』-解釈と教材の研究-1月臨時増刊号・学燈社）
11. 大阪教育大学国語研究室（1983）「大阪市域方言地図集」・私家版
12. 佐藤虎男（1989）「大阪市域方言の方言地理学的調査（4）」（大阪教育大学国語研究室『学大國文』）
13. 真田信治（1990）「地域言語の社会言語学的研究」・和泉書院
14. 宮治弘明（1987）「近畿方言における待遇表現上の一特質」（『国語学』151）
15. 真田信治・岸江信介（1990）「大阪市方言の動向」・文部省科研費補助金
16. 岸江信介（1991）「昭和における大阪市方言の動態」（国語学会編『国語学』163号）
17. 中井精一（1992）「関西共通語化の現状」（『阪大日本語研究』4）
18. 宮治弘明（1992）「方言研究の現在・10」（『日本語学』10月号）
19. 中井精一（1993）「都市言語の形成と受容をめぐる」（森栗茂一編『都市人の発見』）
20. 近畿方言研究会編（1994）「地域語資料集1『京都～大阪方言グロットグラム図集』」